学校だより

翔　　空

№４７　平成２５年　３月　５日（火）
郡山市立喜久田中学校長　大堀　昌弘

「翔空（しょうくう）」の由来　〈校舎のシンボル〉

壁画「空へ」を受け、風光明媚（ふうこうめいび）なこの学舎（まなびや）から、希望に燃え限りない空へ、力強く翔んでほしいという願いを込めて、翔空の碑ができた。

目標実現のためには常に大きな夢を！
～しっかりとした夢を持ちましょう～

今、私の手元には平成２０年に発行された「家庭教育手帳ー福島県版ー」（文部科学省発行）があります。第８章「個性と夢」を開くと次のようなことが書いてあります。

「今の子どもは冷めていて、将来の夢や希望ももたず、難しい目標はチャレンジする前からあきらめてしまうと言われています。しかし、子どもは子どもなりに夢や希望をもっています。どんなに小さく、どんなにヘンに思えるものでも、その夢や希望に耳を傾けましょう。また、自分の経験や長い間にわたって苦労して夢を実現した人々の生き方などを折にふれて話してあげましょう。そして、人生の目標は汗を流し、失敗を重ねながら達成していくものだと励まし、温かく見守っていきましょう。親は子どもの応援団です。」

この文を読みながら、３つのことを考えました。

１）最近テレビなどの報道で、大卒者及び高卒者の就職率がかなり悪いということが流れます。ある若者は４０社分の履歴書などを書いたがいっこうに就職先が見つからず、焦ると共にもう「どうでもいい」といった気持ちになることもあるとインタビューに答えています。こんな状況にあっても私たちは「夢を持つことの大切さ」を平気で言い続けなければならないのでしょうか？

２）毎年、学級担任が学級活動の時間を使って、進路学習の一環として、「将来の夢」「希望する進路」などの作文を書かせます。そんな時、生徒はどんな小さな夢や希望でも大切に持ち続けているのです。大人にはこんなに無垢で純粋な気持ちが果たして残っているのでしょうか？

３）上記の文の最後の「親は子どもの応援団」というメッセージ。虐待をする親が増えているのを聞くにつけ、なぜなの？と思わざるを得ません。一体全体どうなっているのでしょう！ここ２０年で世の中がだいぶ変わったような気がします。ちなみに、私は今年で教職３２年目に入ります。

今回はとりとめもないことを文章にしてしまいましたが、わずか８日ほどで卒業していく３年生諸君には、大きな夢をいだいて最後まで頑張ってほしいと心から思っています。

がんばれ卒業生！
がんばれ３０名の受験生！
夢や希望を大きく持って、
常に将来を見据えながら。

【名言・格言 第１０弾】

今回は、卒業生に、はなむけの言葉を２つ贈ります。

People rarely succeed unless they have fun in what they are doing.

（楽しめないことで、成功するというのは難しい。）
～デール・カーネギー～

成功の秘訣を一言で表現したものと言えるでしょう。かの有名なカーネギーだからこそポイントを言い当てた適切な表現となっています。

（ピープル　レアリー　サクシード　アンレス　ゼイ　ハブ　ファン　イン　ホワット　ゼイ　アー　ドゥイング）

もう一つは、次のことわざです。

"A little learning is a dangerous thing."

直　訳：「少ししか学んでいないということは危険なことだ。」
意　訳：「**生兵法は怪我のもと**」
読み方：「ア　リトル　ラーニング　イズ　ア　デンジャラス　スィング」

「少しばかり知っているからと言って出過ぎたまねはしない方がよい」との警告でもあるこの諺ですが、私自身の座右の銘でもあります。常に、物事の真偽を確かめて一歩ずつ進もうと思います。

今日は、**３月５日**です。３年生にとっての実質登校日が卒業式の日をのぞき、５日となりました。

感動的な卒業式をみんなの心を一つにして迎えたいと考えています。